

「明和大津波 ～過去の教訓から学ぶ～」

おおなみのときかくむらのなりゆきしよ

「大波之時各村之形行書」

おおなみよせあがりそうろうしだい

「大波寄揚候次第」

より

「石垣市史叢書12」

「大波之時各村之形行書」

津波の被害状況を八重山から王府に伝えた公式の報告書

「大波寄揚候次第」

津波前後の状況を八重山側が王府に行政指導などを仰いだ往復文書を集めたもの

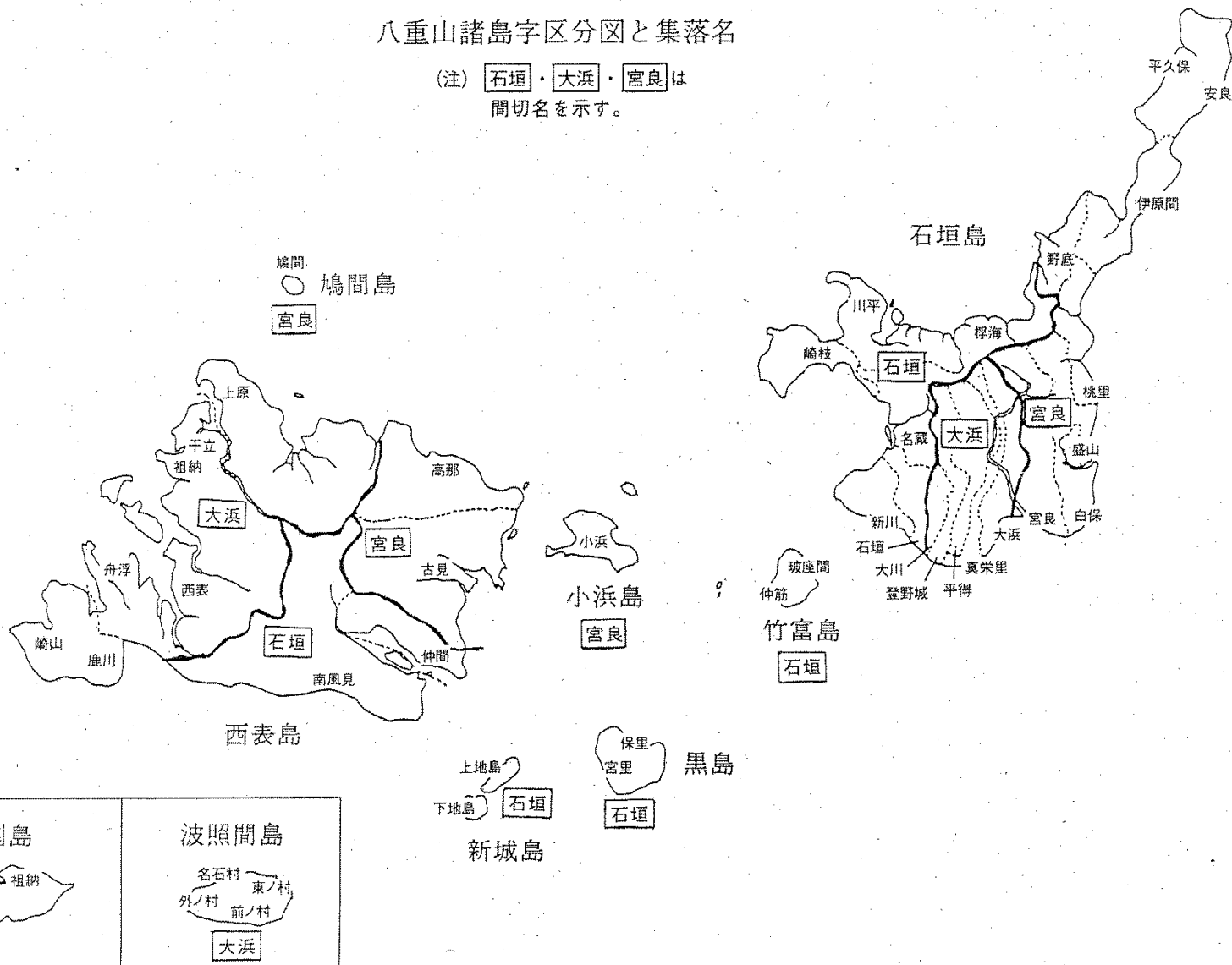
明和大津波

明和八年（1771年：243年前）、石垣島南南東40kmの海底で起こった地震による津波
マグニチュード7.4

当時の字区分図

八重山諸島字区分図と集落名

(注) 石垣・大浜・宮良は
間切名を示す。



津波後の蔵元・村の状況

村名等	移転先	備考
蔵元	文嶺（ブンニ）へ移転後、フナナへ再移転	※蔵元と四カ村は、一度文嶺に移動したが、港が遠く、水も不自由、全ての勝手が良くないということから、再移動している。
登野城村	村は元の通りにし、番所も民家を借りている	
大川村	村は元の通りにしたが、番所は内陸のスヒネに移転	
石垣村	村は元の通りにしたが、番所は内陸の平川に移動	
新川村	村は元の通りにしたが、番所は内陸の真地に移動	
平得村	村は元の通りにしたが、番所は内陸の村内へ移転	
真栄里村	嘉謝内原へ村を移転	
大浜村	田原へ村を移転	

古文書から見た四カ村における番所移転地

- もとの番所
- 津波後の移転地

